

2023年度 東京都教職員欠員・未配置調査（4・5月実施）実施状況調査まとめ（第1次）

【調査期間】2023年4・5月 【調査対象】都内公立中学校 教職員

【報告者数：215人】

【校種内訳】小学校 154 中学校 48 その他（養護・小中一貫・不明等）13

この結果をもとに、2023年6月2日に都教委要請を行いました。ご協力ありがとうございました。

2023年6月 分会配布用討議資料 東京都教職員組合

*4月1日時点の未配置・未充足について

◆任用別◆ 単位:人

正規	臨時的任用	専門員	非常勤教員	時間講師	区市町村採用	計
157	40	9	22	39	8	275

◆校種・職種別◆

小学校

学級担任・副担任（通常）	特別支援学級担当（固定）	特別支援教室担当	算数少人数指導担当	英語専科	音楽専科	図工専科	家庭科専科
25	18	24	32	13	3	5	14

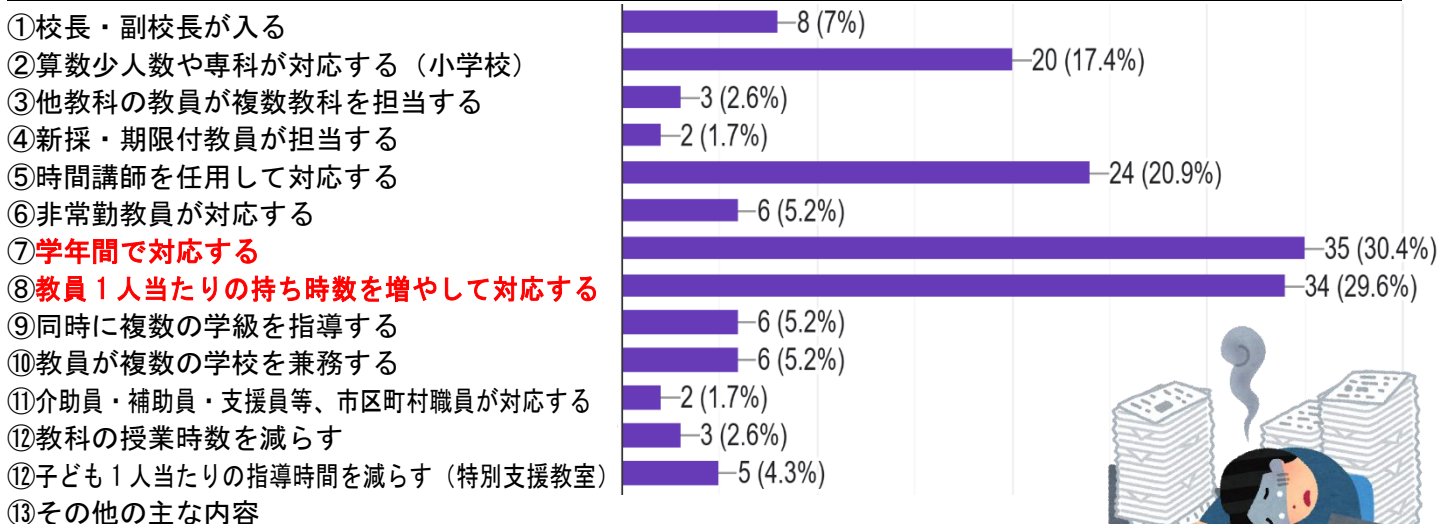
理科専科・支援員	初任・年次研に伴う後補充	主任・主幹軽減	妊娠等の勤務軽減	育児短時間の欠員補充	栄養職員・栄養教諭	養護教諭	事務職員	介助員・学習支援員・補助員	計
11	16	5	9	7	10	1	1	14	208

中学校

国語	社会	数学	理科	英語	保健体育	家庭科	技術	美術	音楽
8	3	4	4	10	3	5	6	4	2

特別支援学級担任（固定）	特別支援教室担当	初任・年次研に伴う後補充	主任・主幹軽減	妊娠等の勤務軽減	育児短時間の欠員補充	栄養職員・栄養教諭	養護教諭	事務職員	介助員・学習支援員・補助員	計
2	6	0	0	0	0	3	3	2	2	67

問.4月1日時点での校内対応に当てはまるものに○をお付けください（小・中共通。複数回答可） 155回答



- ・配置されるまで他教科の授業を行う。 ・児童67名を5人で担当する（知的）
- ・担任が空き時間なしで授業をする。 ・他教科の教員を採用してもらう。
- ・栄養職員の産休代替が未配置のため、栄養教諭が給食センターの業務を負担している

問.欠員・未配置によって生じた問題（働き方、児童生徒への影響等に関して）があれば詳しくお書きください。（一部抜粋）（小・中共通）

●教員の持ち時数増、担当生徒・児童増による負担

- ・時間講師ですが年度末のオーダーより5時間上乗せとなりました。
- ・英語の教員の持ち時間の増加。教員不足による校内分掌の負担増加。
- ・週27時間の授業を行うことになる

●特別支援教育へのしわ寄せ、教育の機会が失われる

- ・特別支援学級の後補充はいつも後回しにされます。誰でもできるわけではないと管理職も感じています。
- ・もう既に特別支援教室の教員 1 人当たりの持ち児童数 13 名を軽く超えています。
- ・空き時間もほとんどないため、教材準備や入級希望者の対応(インテークや、入級するための枠がない)が難しい。
- ・指導枠が足りないため、小集団で児童 4 人を 2 人の教員で指導する時間もある。
- ・学校によっては指導枠が確保できず、新 1 年生のみ 1 時間指導となった。(担当児 15 名、週の持ち時間は 24 時間)
- ・知的固定級の介助員の数が学校ごとに 2 名と区の支援課から伝えられた。それぞれのお子さんの実態や学級規模に違いがあるなかおかし。児童が 41 名だろうが 10 名だろうが学校ごとに 2 名。
- ・1 年生 9 名を、担任 1 人で見ています。新担任が来る見通しはありません。あっても、その人は通常学級優先となり特支に来て通常学級に回すと校長に言われてしまいました。IQ32 で心臓病を抱えている子もいるし、ADHD の多動が複数、自閉症で大声を出す子もいます。このままだと倒れそうです。

●専門教科を受ける権利が侵害される

- ・家庭科の授業が受けられなくなる。
- ・算数少人数指導が行えない。育休代替がとれず、算数少人数担当を時間講師が対応している。
- ・算数少人数担当者が行っていた授業準備など(授業計画、プリント作成、印刷、教具の準備)の業務を学年教員が負担している。少人数授業(習熟度別授業)ができないので、子どもの理解度に応じた学習がしにくい。

●子ども・保護者の不安

- ・特別支援教室の新採が年度途中で見つかった場合は、担当教員が変わるかもしれないことを学校だよりで知らせていた。
- ・3 月最終日に 1 人が退職。1 つの学年に欠員があり、算数少人数担当を当てましたが、突然隣のクラス担任も休職になり、3 クラスで 2 人が欠員と言う状況が発生しました。休職のクラスは専科が交代で補教に入っています。
- ・保護者や児童への対応が通常通りにできていない。安全確保ができない。
- ・初任者(大卒)指導に手が回らず、保護者から「引継ぎをちゃんとしてください」と言われました。
- ・5 人担任の所を 4 人担任で学級経営していくため、安全管理も行き届いていない。

●教育の質の低下

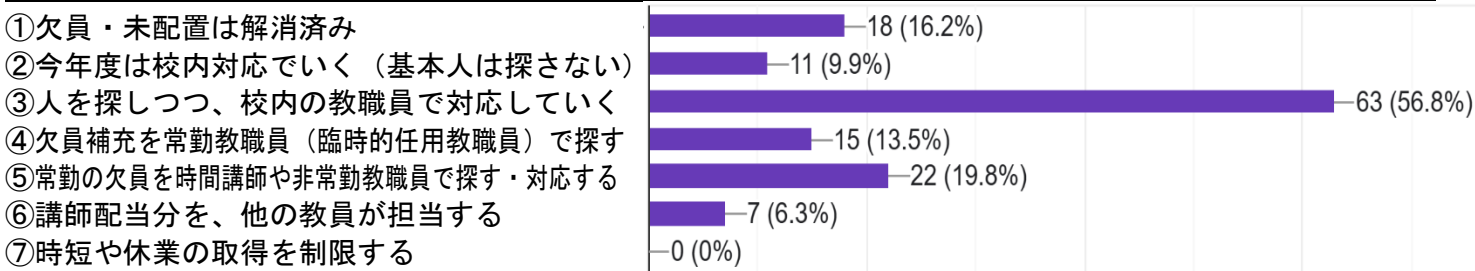
- ・教材研究、教室観察適応状況把握の時間が取れません。
- ・音楽専科が担任を務めるため、音楽は担任が対応。空き時間が減少。
- ・美術部の顧問がいないため、誰が担当するかで議論になった。
- ・個別指導の際、一対一で指導ができない状況が増え、個に応じた指導が難しい。
- ・教科担任制が成立しないので時間割の調整が難しい。
- ・1 対 1 の個別学習ができず、教員 1 に対して児童 2 の個別学習となる。



●長時間過密労働、負担増

- ・学年への負担、教材準備など学級担任の負担が増える。校務分掌の負担が増える
- ・時間軽減がなくなる。一人あたりの持ち時間が増え負担がかかる。補強体制も整わない。
- ・欠員 1 人分、分掌や指導時数、担当児童数が増え、教員一人一人の仕事上の負担が増えた。退勤も遅くなった。
- ・体育軽減をとれるはずの妊娠された教員の体育を、非常勤教員が対応している。

問. 空白解消等に向けた今後の方策(予定)に当てはまるものに○をお付けください。(小・中共通。複数回答可) 111 回答



- ・常勤教員は免許がないので、家庭科の免許を持っている方を探し続けるしかない。
- ・人を探す、実際には、算数少人数指導を行わない。
- ・講師登録されていた方をお願いして常勤になってもらおうとしています。
- ・来年度教員増を求める
- ・分からない

問. 地教委・都教委への要望があればお書きください。(一部抜粋)

●教職員の配置・教職員増

- ・教員不足が予想されるのであれば、すぐに対処すべき。
- ・特別支援教室に適性がない教員、つまり担任を持ってないからという理由で教員を配置するのはやめてください。適性がないのなら、教育委員会が育成を担うべきです
- ・技術科が深刻です。自校で担任や学年主任をしながら他校の授業に出向き、週に 23 時間、自転車での移動、勤務時間や休憩時間の概念もない。採用の段階から考えた、見通しのある採用を。

- ・副校長でなく、区教委が連絡をとり、人を探してほしい。管理職がずっと電話していて学校業務が動かない。
- ・担任の負担が大きくなるので、できるだけ早期に家庭科（英語科と兼務）専科を配置していただきたい
- ・スクールサポートスタッフの配置は大変たすかりますが、正規の教員を増やしてほしいです。
- ・事務担当職員の配置を求めます。事務職員が昨年からずっと休み、区の職員にその仕事が回り困っている。
- ・専任ではなく臨時的任用対応でコストを抑えた分、講師時数を特例で増やすなどしてほしい。
- ・家庭科の教員が新採であり、ただでさえ大変な状況であるのに、他校の生徒を教えることになり、その負担は計り知れない。それとともに、我が校もその間人員が削減されることになる。
- ・全都で必要数を調べて、都教委が適切な人を配置していただけないでしょうか。もちろん、誰でもいけばよいというわけではありません。教員として、児童にきちんとした指導のできる方をお願いしたいです。

●特別支援教育

- ・特別支援教室の教員数はどの段階で決定しているのか、通知をはやめに出してほしい。人が足りないのであればそれも知らせて欲しい。（今年度本校では、新1年生の人数が多く2月末に教員数+1の通室児童数となった。しかし、教員数の決定通知が来たのは3/31で、配置する教員もいないことが通達された。）
- ・特別支援教室の個別指導の確保ができません。支援の充実を図るためにも、現場では常に精一杯体制の強化を図っています。支援が不十分なことだけは避けたいです。どうか欠員の解消をお願いします。
- ・特別支援学級（知固）のクラス数の基準となる児童数を8人から少なくしてほしい。
- ・途中入室の児童がいることを見込み、特別支援教室の担当人数を12人から減らすように見直してほしい。
- ・支援員の予算を増やしてほしい
- ・通級希望者が年々増え、行動観察などの時間の確保、教科準備の確保が難しい。さらに校務分掌や補教なども学校から要求されているため、児童に十分な支援が準備できない。4月最初から空白なくみんな自分のクラスの仕事をできるような人の配置をできるようにしてほしい。
- ・情緒通級の時は、生徒10名に教員1名+1名でしたが、それが、単純比例10名に1名となり、今12名に1名と切り下げられている。しかも問題は、情緒障害学級の時は各学級毎への定数配置だったのが、今は、拠点校毎への配置ではなく、区・市・町・村にまとめて教員配置し、それを区教委判断で各拠点校に割り振りされている。そこが不透明で、4拠点校への教員配置にアンバランスが生じている
- ・特別支援教室、巡回指導教員の定数を各拠点校毎に以前の「情緒障害学級」の定数基準に戻してほしい。
- ・各拠点校への教員配置を3月末時点の生徒数に応じて公平に配置してほしい。（その際、非常勤教員は定数外なので、教員数算定に加味しないこと）

●教職員の処遇改善、持ち時数の削減、少人数学級

- ・「持続可能」な学校にしないと、志望者は増えない。魅力ある学校、働きやすい学校になるよう、授業時数や各種研修を軽減してほしい。少人数学級が広まれば、働きやすくなり、若者もきっと教師を目指してくれる。
- ・30人学級の実現。低学年は25人までとする。
- ・とにかく教員への待遇（給料、持ち時間等）をよくすること
- ・男性の育休は、配偶者の妊娠がわかった時点で育休をとるかどうかが管理職に伝える制度を作った方が良い。
- ・教科書関係、私費会計、学校便り作成など教員でなくてもできる仕事です。人員配置を求めます。
- ・次年度の児童数を秋に確定することは難しいので、異動確定の時期を遅くしてほしい。
- ・教員の働き方を一刻も早く改善し、魅力とやりがいのある仕事になるように行政として責任を果たしてほしい。
- ・年度初めの準備期間が、十分に取れる時間を確保してほしい。（今年度のように準備期間が短い場合など）
- ・残業代を発生させていただきたく思います。また、定時になったらもう全員帰ると決めてほしいです。
- ・病欠休暇に入った教員がいた場合、すぐに関わりのある教員を探せるようにしてほしい。
- ・OJTや研修会に出席する時間、ケース会議を行う時間を勤務時間内に確保できるような働き方を求めます。
- ・学校の規模に関わらず、1人当たりの待ち時数が20コマ程度になるように、講師や非常勤を加配してほしい。
- ・育児短時間の取得の欠員補充は、持ち時数でなく勤務時間の減分をあててほしい。
- ・「今年度は仕方ない」ではなく、早急に対応していただけたらと思う。
- ・西多摩地区は交通の便などから代替え希望がつきにくい。西多摩として栄養職員の加配をつけてもらえないか。
- ・4月最初から空白なく、みんな自分のクラスの仕事をできるような人の配置をできるようにしてほしい。
- ・教員不足は入り口問題ではなく、本質的なもの。教員が子どもと授業のことにだけ集中できる環境を。

問. 自由意見欄（一部抜粋）

- ・管理職が講師を探すために88件電話したと言っていました。年度末から年度始めの忙しい時期にこのような業務がなければ、よりよい新年度の準備ができると思います。
- ・教員の業務を減らし教職を魅力あるものとしないうり新しい人材が入ってくれることは無いと思います。
- ・辞めるか休むかまで追い詰められている。特別支援教室・学級の教員が下に見られるという現状も変わらず。
- ・仮に病休の職員が出たとしたら「算数少人数担当」、次いで「特別支援教室担当」が加配が見つかるまでの学級担任となることが決定している。代替が見つからないことを予め想定した人事となっていること自体が問題。

- ・勤務時間の超過や研究授業の負担等のストレスにより、休職を余儀なくされている方が多くいます。教育という未来への投資を担う、現職の教員を大事にされるような政策を求めます。
- ・特別支援学級は複数担任で講師もいるからどうにかやれると思っているのか、対応は学級内で求められている。
- ・時差通勤のため朝は職員の人数が足りず、登校時の安全管理や受け入れ態勢も満足に整えられない。
- ・休みたくても休めない(休みにくい)、子どものために何かしたいと思っても準備が間に合わない、そんな半年を過ごしているとさすがに教員をしている意味って何だろう？と考えてしまうときがあります。
- ・今年度他市から異動してきたが、未だにこんな学校があるのかカルチャーショックを受けた。管理職がひどい校長は教員に対するパワハラ行為、副校長は仕事をしない。毎日定時に帰ってしまう。自分の仕事を他の人に押しつけられているなど問題が山積みで書ききれない。
- ・新採が増えれば産代はさらに必要となる。今年度から教員を柔軟に採用できるよう手を尽くすべき。
- ・働き方改革とは名ばかりで全く仕事量は変わらない。病休の教員が出たにも関わらず、管理職からは特別支援教室はチームだからチームで対応してほしいと言われた。労いの言葉は全くなくただ奴隷のように働かされたことに不満を感じる。教員も人間なので保護者の顔色ばかり伺うのではなく、一人ひとりを大切にしてほしい。
- ・現場の教員は疲弊している。人員不足のままやっていくしか無いのなら、登校時の見守り、新一年生の下校付き添いなど、保護者ができる物は保護者に、移行したい。
- ・事務作業に追われて学習の準備ができていません。また、安全確保が優先なので、支援員さんが足りない状況では、活動を制限するしかありません。教育活動の質を低下させざるを得ない状況です。”
- ・4月1日時点では、教員の未配置はありませんでした。ですが、3月末まで新規採用が決まらず、新一年が3クラスか4クラスかわかりませんでした。
- ・今後、産休に入る教員が2名いるので、産休代替教員が見つかるのか不安です。
- ・登録名簿に人がいないのはこの仕事に魅力がないということなので、仕事の環境から考えないといけない問題。
- ・定年延長でも今のような働き方ができる60代ばかりではない。体育軽減などの策がないと早期退職が増える。
- ・今年は異動が多く(管理職含めて)、新しく来られた方々ももともといる教員もものすごく忙しい。
- ・業務を減らすために児童の行事を削減する、軽減するという考え方も疑問である。学習以外の行事等を経験し、感じることで、子どもたちはさらに成長していくはず。
- ・コロナ禍、タブレットの普及の中で、児童が自分で行動する場をうばってよいのだろうか。
- ・今年は異動が多く(管理職含めて)新しく来られた方々も、もともといる教員もものすごく忙しい。
- ・個別の対応が増えたため、昨年と同様では特支の介助員が足りない。安全に過ごすために何とかしてほしい。
- ・特別支援コーディネーターは専任にしてほしい。書類は多いし、毎年変わるし、調整も大変。本務に影響する。
- ・算数の方の産代替は決まり、すでに勤務が始まっており安心かと思いきや、講師感覚で分掌の分担をこぼまれている傾向があり、強くやってくれと言えず、結局、正規の人の仕事の負担が増えている。
- ・育児等での時差勤務制度はよいが、制度利用者が複数人いるときも、講師時数を特例で増やしてほしい。
- ・昨年度は休職する教諭が複数名いたため、補教体制をとったり、担任が指導に入ることが多かった。
- ・すまいるルームの教員の持ち時数が週25Hを超えています。
- ・教員不足は、働き方の問題と専門性の軽視が原因。
- ・小金井の教育メタバースを止めていただきたいです。

アンケート結果から、都内約1900校の内約200校からの集計にも関わらず、未配置・未充足・欠員は250を超える結果となりました。正規も非正規も、子どもにとっては同じ教職員であり、一人が欠けただけで業務に多大な支障が出ています。未配置によってさらに新採や業務未経験の教職員に対する支援や校内研修が非常に困難であることが報告されています。また、専科や特別支援担当をはがして学級担任に配置するという事案が多く、子どもが少人数指導や必要な支援が受けられず、その特性に応じて学ぶ権利が侵害されかねない事態となっています。技術科や家庭科などの教員が足りず、複数の学校を兼任する事例が起きており、教職員の雇用や安全面、校務分掌の問題も懸念されています。校内体制で乗り切らされようとする学校が多く、教員一人ひとりの持ち時数が増え、空き時間がなく長時間過密労働が加速し、多くの教職員が疲弊しています。昨年度同様、年度途中の休職・早期退職が増えれば、このまま教職員不足は解消することなくさらに深刻化していくと思われまます。

深刻な教職員不足 早急な解消を

アンケート結果は、6月2日に東京都教育委員会へ「教職員の欠員・未配置を早急に解消することを求める緊急要請書」とともに提出されました。今後、子どもと教育を守る東京連絡会等、各地域の教育・市民団体や保護者と共に、教職員不足問題についてとりくんでいきます。ぜひ、この問題を学校・地域で共有し、安心・安全な学校教育の保障と、どの子にもゆきとどいた教育をすすめるための教育条件整備、教職員の処遇改善を求める声をあげていきましょう。



■お問い合わせ■東京都教職員組合(都教組)

都教委要請文書や詳しいアンケート結果はこちらの組合員専用サイトで閲覧できます。

ともに声をあげよう!

あなたもぜひ都教組へ

組合加入・労働相談はこちら

☎03-3230-3891

